

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390300509		
法人名	医療法人 愛生会		
事業所名	第2グループホーム愛生		
所在地	熊本県人吉市南泉田町115		
自己評価作成日	平成 26年 2月 5日	評価結果市町村受理日	平成26年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アクシス		
所在地	熊本県熊本市八幡9-6-51		
訪問調査日	平成26年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出・外食 医療との連携 学習療法 季節の行事 認知症ケア(笑顔プロジェクト) ≪ハード面≫ 太陽光発電・天然温泉・防火・耐火建築
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所が属する法人には、医療機関や訪問看護ステーションがあり、利用者を支える体制が充実しています。家族にとって、もっとも気がかりな緊急時の対応や夜間の受診体制についても、訪問看護師や医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるよう支援しています。また、介護計画作成においても、訪問看護師と医療機関の外来看護師が支援しており、より現状に即した介護計画を作成しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で作った理念を施設内に掲示している。理念はアンケートと話し合いを行い決定した。朝礼時には唱和している。	事業所の理念は、利用者に寄り添い、利用者の思いや意向の実現を目指して作り上げられている。その骨子は、「安心、信頼、まごころ、チームワーク、笑顔」の5項目から成っている。また共有・実践に向けた取り組みとしては、毎日の朝礼時の唱和と、ミーティングによる振り返りにより行っている。	理念は、より良いサービスを提供するための基本です。唱和が単なる習慣化することがないように、できているのかのチェックをお願いします。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時にはシルバー人材センターや地域のお店が出店し近所の方にも参加して頂いて地域の方にもボランティアを募っている。よかもん市を施設内で開催し近所のスーパーなどに来て頂き買い物を楽しんで頂いている。	事業所は、同法人の事業所と合同で、夏祭りや文化祭、またよかもん市を開催しています。場所は同じ敷地内にある多目的ホールで行われ、その際は近隣の方々が参加されている。よかもん市は、毎月第3火曜日で、衣料品、野菜、パン、饅頭などの嗜好まで販売しているそうです。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員全員が認知症サポーター養成講座受講を行っている。ホームヘルパー養成研修の施設実習を受け入れている。ボランティアスクールを受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事予定や情報を得て外出の機会を得ている。民生委員にも来て頂き事業所の利用者の状況を報告し火災や災害時には協力し合えるよう情報を発信している。	運営推進会議は、偶数月に行われており、メンバーは、外部から市役所の担当者、社協職員、民生委員、家族などとなっている。会議では、利用者の状況や事業所の取り組みについて報告している。市役所の担当者からは、感染等について、また民生委員からは地区の行事や老人会の花見などの情報がもたらされている。	火災や災害時の応援体制づくりを、運営推進会議の中で話し合っ欲しいと思います。今後、具体的な支援方法が見出せればと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営会議にて情報を報告しファックスにて感染症や風邪の流行・介護関係の情報を頂いている。	市役所の担当者も運営推進会議に出席しており、そこで利用者の状況や、事業所の実情を伝えている。運営上、分からない点や判断に迷う事があれば、いつでも相談できる関係を築いている。	

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修を行っている。専門誌で全員が学習出来るようにしている。	事業所で研修会をおこなっており、具体的な行為や拘束による弊害などについて勉強している。また、連絡協議会などにおける身体拘束に関する資料は、回覧し、全員が確認するようにしている。認知症ケア最前線等の専門誌の購読も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員自ら学習し講師役となり職員全員が学習できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用者に成年後見人制度を利用されている方がおられる為学ぶいい機会となっている。年間の研修計画に入れており職員自ら学習し講師役となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には時間を頂き十分理解をされ納得された上で契約をして頂いている。入院時にはその都度病状などの説明や家族の不安など聞いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会やサービス担当者会議等で家族の意見を聞く機会があるが運営そのものへの要望は聞かれていない。	日頃の面会時やサービス担当者会議などを利用して、家族の意見や要望を聞く機会を儲けている。また、第三者苦情処理機関のポスターも掲示している。	家族からすれば利用している関係上、本当の気持ちは発言しにくいと思います。これからも謙虚に耳を傾ける姿勢と、その雰囲気づくりに取り組んで欲しいと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議を行い職員が自ら問題点や今後の予定を決め職員が話しやすい場を設けている。問題が発生した時にはすぐに全職員に意見を聞いて対応を行っている。	毎日ホーム会議を行っており、そこでは意見や提案を聞く機会を設けている。その他に、必要があれば個別対応も行っている。また職員の聞き取りからも思ったことは、気兼ねなく発言できる雰囲気であることが確認できた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	気分転換に社内のスポーツ大会に参加したり・忘年会などを行っている。また希望休は出来るだけ取れるように勤務調整を行っている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	掲示板に研修会の案内を紹介している。専門誌を2誌回覧している。毎年普通救命講習を行っている。職員研修は毎月・自ら調べ講師役として発表している。今年は介護福祉士試験を受けた職員が3名いる。認知症ライフパートナー検定を受けた職員が1名いる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に参加しており連絡会で行う研修に参加している。笑顔プロジェクトを研修会にて発表をおこなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族とお話をして安心してサービスが受けられるようにアセスメントをしっかりとっている。初期は出来るだけお話をして色々なことを聞きどういう人なのか知ること大事にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの意見を聞きその要望に近づけるように努力してサービス担当者会議を開き御家族・他職種に参加して頂き家族の意見を聞きサービスにつなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談あった際は家族と利用者が抱える問題点を考え法人内外のサービス利用も含めた検討を行う		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく簡単な身の回りのことカーテン閉めや掃除・洗濯・料理の手伝いなどは本人の調子に合せ職員と一緒にさせて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会はいつでも来ていただくようお話をしている。御家族と一緒に外食や外出をされることがよくある。遠方におられる御家族には電話で会話をしている携帯を持っておられる利用者様もおられ用がある時は自分で連絡をされる。受診時には御家族が付き添って行かれる方もおられる。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様の実家の近くまでヘドライブに行ったり、よく通っていた食堂へ外食に職員と出かけたりしている。通っていた小学校や散歩されていたコースを散歩したりしている。おくんち祭りは施設前にコースがあり参加して頂いている。	出来るだけ、利用者一人一人の思いや意向に添った支援が出来るよう心がけている。また、日頃の面会者としては、家族がほとんどの様であるが、中には過去に利用者のお弟子さんだった方や、姪御様の訪問などもあるようである。また、おくんち祭りのルートが、施設の前になっているということで、皆さん楽しみにされているようである。	
21		利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食堂の席利用者様の状態変化があった時などは利用者同士の関係を考えながら席決めしている。どうしても他の入居者様との関係がうまく行かない方に関しては一緒に職員がごはんを食べて対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	有料へ行かれた方の所へ行きお話をする機会がある。夏祭り等にてボランティアで御家族が来られることがありお話をきくことがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ職員本位ではなく利用者本位の意見を尊重している。個別ケアを基本として集団でのケアは少ない方である。出来るだけそばで話を聞き会話の中から何がしたいのかなどを聞くようにしている。	事業所では、個別ケアに力を入れているということで、日々の寄り添いの中から、またコミュニケーションの中から思いや意向の把握に努めている。また受診されている病院の理学療法士から情報を得ることもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族から直接話を聞いたり会話や生活リズムから把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や申し送りノートなどを使って1日の記録を行って申し送りを毎日おこなっている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画が実行されたかどうかを毎日チェックを行いモニタリングにつなげている。介護計画作成の前にはサービス担当者会議を開いて御家族や他職種からの意見を聞き作成に役立てている。月に一度ホーム会議を行い意見を聞いている。	介護計画を作成するにあたっては、事前にサービス担当者会議を開いている。そこでは、家族の意見や要望、また訪問看護師の意見等も聞き、現状に即した介護計画になるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日個別の記録をとっている。記録は朝と夕に申し送りを行っている。笑顔プロジェクトも実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の体調や状態に合せ中止や延期をしたりして対応している。また家族の状況に合わせ買い物を代行したりしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ふれあい市として地元のスーパーに来てもらい好きなものを買って頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族への了解を得て法人内の医療機関をかかりつけ医としている。必要に応じて他の医療機関の受診も行っている。	現在、全利用者が法人内の医療機関をかかりつけ医としている。緊急時の対応や、夜間の対応が可能ということで、家族の安心にもつながっている。現在、認知症の専門医を受診している利用者は、いないようである。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の訪問看護ステーションと連携し毎週水曜日に健康チェックを行ってもらっている。その際指導や指示を頂き異常時や緊急時には夜間でも連絡し指示をもらっている。サービス会議等に参加して頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	R4システムを利用して入院時の情報提供をおこなっている。入退所時の情報交換も行っている。入院時には病院へ行き状態確認を行い病院関係者からも情報交換を行っている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は延命を望まず緊急時のみ病院へ移送してほしいという方が何人かいらっしゃる。サービス会議時に急変時などの対応についての話し合いは行っている。	重度化した場合の対応として、日常的に医療行為が必要となったり、経口摂取が難しくなったりした場合には、病院への移送を行っている。また看取りについては、これまで実績もなく、今のところ、その準備も行っていない。	4月からは、月に2回の訪問診療が始まる予定と伺いました。今後、看取り支援についても、検討してみたいと思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年普通救命講習を全職員受けるようにしている。急変の可能性のある方の急変時の対応について話し合いを行い家族にも了解を得てある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。地域との協力体制が築けていない。人吉市の災害模擬訓練も病院全体で行う予定であったが台風により中止になった。	事業所は3階にあり、避難訓練は他の事業所と合同で行っている。年に2回行っている訓練のうち、1回は消防署指導のもと実施している。	事業所が3階であること、夜間の人数が多いこと、避難するのに支援が必要なことなど、リスクが高いことを再度認識し、実りある訓練をお願いしたいと思います。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一緒に座りながら会話をしている。オムツ類はトイレの見える場所には置かないようにしている。否定はせず一人一人話を聞くように心がけている。	法人主催の研修会を行っている。外部に講師を要請し、挨拶・接遇・距離感等について勉強している。職員からの聞き取りでは、排泄や入浴時の対応について話しを聞きました。一つ一つ声掛けをしながら、失礼にならないような支援に努めているということでした。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	理解できる方は出来るだけ本人に衣類を選んで頂いている。希望を聞くために職員が積極的にお話をして希望を聞き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ入居者のペースに合わせようとしている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪が伸びた際は訪問の美容師さんに切って頂いている。昔マニキュアをされたことがあると聞き職員が塗ってあげると喜ばれたことがある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が献立を決めているがイベントなどお祝いの時には行事食として楽しみをもてるメニューとなっている。おかずのつぎわけ片付けをされる利用者もおられる。職員と外食も行っている。	食材の仕入れについては、専門業者から行っている。調理は職員が行っており、おかずのつぎ分けや後片付けに参加される利用者が数名おられるようである。誕生会やお祝いの時などは、利用者の好物を取り入れた特別メニューを提供している。また、食事が楽しみなものになる様、給食委員会があり、利用者目線で改善しているようである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が毎日の献立を決めている。職員が調理をして提供している為一人一人の水分の量や嚥下状態に応じた刻みなどを提供できている。嚥下状態はSTにも診て頂いたことがある。水分は毎日ホワイトボードにてチェックを行っている。摂取量が少ない方にはゼリー対応やジュース対応をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施しており必要ある方は介助をしている。義歯や咀嚼に異常がある方は歯科受診をおこなっている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツから布パンツへ変更された入居者様がおられ出来るだけトイレへ行って頂くように声かけしている。また尿量によりばつとの変更など行っている。排泄パターンをつかむ為トイレの時間排便の量などをチェック表に毎日チェックしておりそれを見てトイレの間隔などを把握している。	3~4名の利用者は自立しているようである。排泄チェック表を記入しており、一人一人の特徴をつかみ、時間による声掛けを行い、トイレでの排泄を支援している。その他にも立ち上がる、落ち着きがなくなる、大きな声を出す、ズボンの中に手を入れる等の固有のサインにも気を配り、声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動はもちろん水分には気を使っておりまた便秘時には乳製品やバナナなどを提供している。便秘がある方には繊維があるものをしっかり食事とっていただくように声かけしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴としているが本人の体調や希望にそって時間や日にちを変更することがある。また楽しんで頂けるように入浴前には本人が好きなおことして頂いて気分の良い状態で入っていただくようにしている。	入浴回数は週3回を予定している。時間は大方決まっているとのことですが、その日の体調や状況等により合わせている。また事業所は、ヒノキの湯船に天然温泉を引いているのも特徴である。入浴拒否をされる利用者の場合には、時間を空けたり、場面を変えたりして支援している。	

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ソファや畳のコーナー・マッサージ機の設置を行いつつでも休んだりリラックスして頂いたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服はファイルに保管しておりすぐに職員がみられるようにしているまた夜勤職員が次の日の内服薬をセットしており薬は把握出来ている。症状の変化がある際は訪問看護へに助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割としては料理のつぎわけや洗濯たたみなどをしていただいている。嗜好品に関してはジュースやコーヒーなどまたお饅頭など甘いものを楽しんで頂いている。楽しみごととしては趣味のプラモデルや散歩・歌・カラオケ・外食・ドライブなどを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩を進めている。普段はあまり行けない遠い場所へも全利用者で行っている。(えびの市のコココーラ工場) 自宅にて御家族と過ごす時間も作っている。	天気のいい時期や天気のいい日には、出来るだけ散歩に出るように支援している。紅葉やコスモス見学、また工場見学等の外出も行っている。また、家族と過ごす時間も大切に考えており、外泊をされる方や墓参りをされる方もおられる様である。	事業所は、近くに人吉城跡や公園があり、恵まれた環境にあります。これからは、気候が良くなりますので、リハビリや気分転換を兼ねて、外の空気を吸うような支援をもっと盛り上げて欲しいと思います。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方以外は預かり金としている。その中から受診代や買い物希望時には出すようにしている。宝くじを買ったりされる方もおられる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を持っておられる方は自分でかけておられる。電話希望時には電話の取次ぎをしている。御家族には広報として写真付きのお手紙を送っている。		

第2グループホーム愛生

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとにホーム内の模様替えを行っている。また花や水槽を置き楽しんでいただいている。また入居者様の状態に合せテーブルの位置やソファの位置の検討も日々行っている。	利用者の皆さんが集われる共用空間はとても明るく穏やかな印象を受けました。月に1度は生け花の先生も来られるとのことで、花が活けて有りました。また、観賞用の熱帯魚が飼ってあったり、壁面には掲示物があったりと、居心地よく過ごしてもらおう工夫が伺えました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやマッサージ機を設置しておりいつでも使用できるようになっている。畳のコーナーも設置しておりいつでも横になることができる。廊下にもソファや畳を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からダンスを持ってきていただきダンスの上には家族の写真をおいておられる。仏壇なども持ってこられている方もおられる。椅子やソファも家族さんが利用者様と話し合って設置して頂いている。	ベッドは事業所で設置されている。寝具については、リースとなっている。その他、家具や調度品については、今まで使用してきた慣れ親しんだものを持ってきてもらうよう話している。家族写真を飾ったり、中には仏壇をお持ちの利用者もおられるようである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ表示や洗面・居室などは分かりやすく文字を拡大して表示している。トイレなどは視線が行く位置に大きく設置している。		